

《芝浦水再生センター・森ヶ崎水再生センター間連絡管整備事業》

芝浦水再生センター、森ヶ崎水再生センターは水処理施設の老朽化や能力不足等の課題を抱えており、施設を全体的に造り替え機能向上を図る再構築の検討を進めています。

再構築時には、一部の処理施設を一時的に休止させる必要があり、処理能力が減少することから、不足する水処理能力をもう一方の水再生センターで補完するために、芝浦水再生センターと森ヶ崎水再生センターをつなぎ下水を相互融通する連絡管を整備しています。この連絡管は施設の再構築のみではなく、地震等の災害時に水処理施設等が被災した場合のバックアップ機能を確保する役割も有しています。



《施設の老朽化対策・浸水対策！代替施設の整備も推進》

下水道局では、老朽化対策と併せ雨水排除能力の増強や耐震性の向上を図る再構築を計画的に推進し、機能向上が必要な施設から順次整備を行っています。

また、時間50ミリを大幅に超える集中豪雨による浸水被害対策として東京アメッシュなどの情報提供によるソフト対策や、東京2020オリンピック・パラリンピックへ向け一部完成した施設を暫定的に稼働させて効果を発揮させています。

東尾久浄化センター尾久系ポンプ室は、現在、尾久地区などの浸水対策を行っている尾久ポンプ所が老朽化により廃止になるため、代替施設として建設をしています。



《東京都流域下水道は50周年を迎えました》

【50周年を迎えた東京都流域下水道】

多摩地域の流域下水道である東京都流域下水道は、昭和44年に流域下水道本部の前身である「多摩川流域下水道建設事務所」の設置に始まり、平成31年4月に50周年を迎えました。

都の流域下水道区域は、多摩地域の下水道計画区域の8割を占め、安全で快適な生活と良好な水環境の創出に大きな役割を果たしてきました。平成22年度末には、都の多摩地域の下水道普及率は99%に達しました。かつて「死の川」と呼ばれていた多摩川は、毎年数百万尾ものアユの遡上が確認されるほどによみがえり、人々が水遊びで楽しむ姿を目にすることができるようになりました。安心して快適な都民生活を支え、良好な水環境を創出し続けるため、東京都下水道局と多摩地域30市町村はともに重要な役割を担っています。



多摩川を遡上するアユの様子



自然体験を通して多摩川に親しむ人々

【東京都流域下水道50周年記念式典】

これまでの50年間を振り返り、次の50年につなげていくための取組の一つとして、令和元年5月28日に記念式典を開催しました。

式典第1部では、小池知事の挨拶、来賓代表の祝辞に続いて、矢岡流域下水道本部長より流域下水道50年の成果等について事業報告を行いました。第2部では、俳優 中本賢様による記念講演、学識経験者等によるパネルディスカッションを行いました。その他、会場では、パネル展示、動画による50年の歴史紹介、VRによる下水道施設体験も行い、市町村とともに進めてきた流域下水道の事業成果を広く発信しました。

この式典を機に、より一層市町村との連携を強化し、今後の流域下水道の新たなスタートとして事業を推進していく所存です。



式典の様子



矢岡流域下水道本部長による事業報告